

歴代法主寂日	弘長二年十一月二十八日 宗祖 親鸞 九十	天安二年一月四日 二世 如信 六十六	正平六年一月十九日 三世 覚如 八十二	元中六年二月二十九日 四世 善如 五十七	明徳四年四月二十四日 五世 綽如 四十四	永享十二年十月十四日 六世 巧如 六十五	長祿元年六月十八日 七世 存如 六十二	明応八年三月二十五日 八世 蓮如 八十五	大永五年二月二日 九世 実如 六十八	天文二十三年八月十三日 十世 証如 三十九	文禄元年十一月二十四日 十一世 顕如 五十	慶応十九年十月五日 東西分派 十二世 教如 五十七	万治元年七月二十五日 十三世 宣如 五十七	寛文十一年四月十四日 十四世 琢如 四十七	歴代法主寂日																														
歴代住職	<table border="1"> <tr> <td>寂祐</td> <td>七世</td> <td>頓誓</td> <td>六世</td> <td>頓了</td> <td>五世</td> <td>了四世家</td> <td>三世</td> <td>願祐</td> <td>二世</td> <td>願行</td> <td>一世</td> <td>天台宗</td> <td>十八世</td> <td>一四七</td> <td>二四四年間</td> </tr> </table>														寂祐	七世	頓誓	六世	頓了	五世	了四世家	三世	願祐	二世	願行	一世	天台宗	十八世	一四七	二四四年間	歴代住職														
寂祐	七世	頓誓	六世	頓了	五世	了四世家	三世	願祐	二世	願行	一世	天台宗	十八世	一四七	二四四年間																														
事柄	<table border="1"> <tr> <td colspan="3">鎌倉</td> <td colspan="3">室町</td> <td colspan="3">安土 桃山</td> <td colspan="3">江戸</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table>														鎌倉			室町			安土 桃山			江戸						事柄															
鎌倉			室町			安土 桃山			江戸																																				
事柄	<table border="1"> <tr> <td>一二四七</td> <td>江守郷種池村に草庵建立 寺号を天台宗金階山無量寿寺と称す</td> <td>一三一一</td> <td>大町に天台宗専修寺建つ 後の三門徒派本山の前身</td> <td>一四七一</td> <td>八代法主蓮如上人が吉崎に道場建立 この頃無量寿寺住職願行が蓮如上人に帰依し浄土真 寺号を無量寿山稱念寺と改め開基となる</td> <td>一四九九</td> <td>蓮如上人入寂の頃寺地を種池村より洲村に移す</td> <td>一五四〇</td> <td>朝倉孝景より北の庄相生の寺地寄進を受け、相生に 移り朝倉家の祈願所となる</td> <td>一五八三</td> <td>柴田勝家亡ぶ</td> <td>一五九六</td> <td>三世住職願祐の時、相生の大火で類焼する</td> <td>一六〇一</td> <td>第一代藩主結城秀康（家康の二男）より十二ヶ寺を 内廊地へ 稱念寺含む九ヶ寺を外廊地給う（北の庄常盤町）</td> <td>一六二四</td> <td>第三代藩主松平忠昌、北の庄を福居と改む</td> <td>一六四五</td> <td>第四代藩主松平光通より五世住職頓了は寺格を院家 に列せられる</td> <td>一六五九</td> <td>四月の大火で類焼し六世住職頓誓は寺を川上町（現 在地）に移す 境内地二、九一二坪あり 稱念寺は松平家や家老本多富正と親戚となり、住職 の登城行列は家老職以上の威儀をもつに至った</td> <td>一六七二</td> <td>稱念寺門徒数千戸、末寺道場十数ヶ寺を有す 院家稱念寺八世住職寂祐と院家善林寺住職祐誓は、 本瑞寺（後の東別院）の重要宗務を担当し東派を統 轄する 本瑞寺を福居塩町に総道場を建て第二世竜華院の後 見役を務める</td> <td>一六七三</td> <td>吉崎の蓮如古跡に五十間四方の御堂建つ 東派に寄 進された</td> <td>一六七九</td> <td>吉崎御堂の所有について潜在主権の申し出を両派が 行い、江戸社寺奉行所に於て西派と激しく対立のす え勝つ 東派末寺門徒の信頼を得て本山内での発言力 を握る</td> <td>一六七九</td> <td>吉崎御堂の所有について潜在主権の申し出を両派が 行い、江戸社寺奉行所に於て西派と激しく対立のす え勝つ 東派末寺門徒の信頼を得て本山内での発言力 を握る</td> </tr> </table>														一二四七	江守郷種池村に草庵建立 寺号を天台宗金階山無量寿寺と称す	一三一一	大町に天台宗専修寺建つ 後の三門徒派本山の前身	一四七一	八代法主蓮如上人が吉崎に道場建立 この頃無量寿寺住職願行が蓮如上人に帰依し浄土真 寺号を無量寿山稱念寺と改め開基となる	一四九九	蓮如上人入寂の頃寺地を種池村より洲村に移す	一五四〇	朝倉孝景より北の庄相生の寺地寄進を受け、相生に 移り朝倉家の祈願所となる	一五八三	柴田勝家亡ぶ	一五九六	三世住職願祐の時、相生の大火で類焼する	一六〇一	第一代藩主結城秀康（家康の二男）より十二ヶ寺を 内廊地へ 稱念寺含む九ヶ寺を外廊地給う（北の庄常盤町）	一六二四	第三代藩主松平忠昌、北の庄を福居と改む	一六四五	第四代藩主松平光通より五世住職頓了は寺格を院家 に列せられる	一六五九	四月の大火で類焼し六世住職頓誓は寺を川上町（現 在地）に移す 境内地二、九一二坪あり 稱念寺は松平家や家老本多富正と親戚となり、住職 の登城行列は家老職以上の威儀をもつに至った	一六七二	稱念寺門徒数千戸、末寺道場十数ヶ寺を有す 院家稱念寺八世住職寂祐と院家善林寺住職祐誓は、 本瑞寺（後の東別院）の重要宗務を担当し東派を統 轄する 本瑞寺を福居塩町に総道場を建て第二世竜華院の後 見役を務める	一六七三	吉崎の蓮如古跡に五十間四方の御堂建つ 東派に寄 進された	一六七九	吉崎御堂の所有について潜在主権の申し出を両派が 行い、江戸社寺奉行所に於て西派と激しく対立のす え勝つ 東派末寺門徒の信頼を得て本山内での発言力 を握る	一六七九	吉崎御堂の所有について潜在主権の申し出を両派が 行い、江戸社寺奉行所に於て西派と激しく対立のす え勝つ 東派末寺門徒の信頼を得て本山内での発言力 を握る	事柄
一二四七	江守郷種池村に草庵建立 寺号を天台宗金階山無量寿寺と称す	一三一一	大町に天台宗専修寺建つ 後の三門徒派本山の前身	一四七一	八代法主蓮如上人が吉崎に道場建立 この頃無量寿寺住職願行が蓮如上人に帰依し浄土真 寺号を無量寿山稱念寺と改め開基となる	一四九九	蓮如上人入寂の頃寺地を種池村より洲村に移す	一五四〇	朝倉孝景より北の庄相生の寺地寄進を受け、相生に 移り朝倉家の祈願所となる	一五八三	柴田勝家亡ぶ	一五九六	三世住職願祐の時、相生の大火で類焼する	一六〇一	第一代藩主結城秀康（家康の二男）より十二ヶ寺を 内廊地へ 稱念寺含む九ヶ寺を外廊地給う（北の庄常盤町）	一六二四	第三代藩主松平忠昌、北の庄を福居と改む	一六四五	第四代藩主松平光通より五世住職頓了は寺格を院家 に列せられる	一六五九	四月の大火で類焼し六世住職頓誓は寺を川上町（現 在地）に移す 境内地二、九一二坪あり 稱念寺は松平家や家老本多富正と親戚となり、住職 の登城行列は家老職以上の威儀をもつに至った	一六七二	稱念寺門徒数千戸、末寺道場十数ヶ寺を有す 院家稱念寺八世住職寂祐と院家善林寺住職祐誓は、 本瑞寺（後の東別院）の重要宗務を担当し東派を統 轄する 本瑞寺を福居塩町に総道場を建て第二世竜華院の後 見役を務める	一六七三	吉崎の蓮如古跡に五十間四方の御堂建つ 東派に寄 進された	一六七九	吉崎御堂の所有について潜在主権の申し出を両派が 行い、江戸社寺奉行所に於て西派と激しく対立のす え勝つ 東派末寺門徒の信頼を得て本山内での発言力 を握る	一六七九	吉崎御堂の所有について潜在主権の申し出を両派が 行い、江戸社寺奉行所に於て西派と激しく対立のす え勝つ 東派末寺門徒の信頼を得て本山内での発言力 を握る																

歴代法主寂日		歴代住職		事柄	
平成五年四月十三日	八十九	一九九三	平成五年四月十一日	報告法要	本堂修復・門柱・門塀完成
二十四世 闡如	八十九	一九九三	四月十二日	稚児庫裡・御経堂落慶	門塀完成
平成十一年十二月二十四日	七十五	一九九九	四月十二日	開基九百年並びに	追悼法要
二十五世 興如	七十五	一九九九	山門完成		
二十六世 聞如			平成十四年		

元禄七年五月二十二日	寂七世 祐	江戸	一六八三	越前寺東坊百ヶ寺騒動起る
元禄十三年四月十二日	了八世 寂	江戸	一六八三	本派へ三任職問後見役の稱念寺と善林寺が東
延享元年十月二日	了九世 静	江戸	一六八三	派へ転派す六ヶ寺となる。これに對抗して七ヶ寺
宝暦十年七月十一日	寂十世 應	江戸	一六八三	(稱念寺・善林寺・浄勝寺・善尊寺・浄得寺・成福寺・徳立寺・西念寺)
十八世 從如	寂十世 應	江戸	一六八三	明寺・廣善寺・善林寺・浄勝寺・善尊寺・浄得寺・成福寺・徳立寺・西念寺
十七世 真如	了九世 静	江戸	一六八三	寺・廣善寺・善林寺・浄勝寺・善尊寺・浄得寺・成福寺・徳立寺・西念寺
十六世 一如	了八世 寂	江戸	一六八三	明寺・廣善寺・善林寺・浄勝寺・善尊寺・浄得寺・成福寺・徳立寺・西念寺
寛政四年二月二十二日	祐十一世 也	江戸	一六八三	本堂・庫裡・鐘樓・大門再建整備する
慶応元年十一月四日	祐十二世 興	江戸	一六八三	本堂・庫裡・鐘樓・大門再建整備する
二十世 達如	祐十三世 静	江戸	一六八三	本堂・庫裡・鐘樓・大門再建整備する
明治二十七年一月十五日	祐十三世 静	江戸	一六八三	本堂・庫裡・鐘樓・大門再建整備する
二十一世 巖如	祐十三世 静	江戸	一六八三	本堂・庫裡・鐘樓・大門再建整備する
大正十二年二月八日	頓十四世 祐	大正	一九四五	昭和二十年七月十九日 昭米軍B29より空襲を受け、寺は全焼し福井市民家九十五%とともに廃墟となる。
二十二世 現如	秀十六世 覚	昭和	一九四八	昭和二十三年六月二十八日の福井大地震、七月二十日震災後都市計画により全滅する。墓地移転準備の為安置。寺地面積の確定(現在寺地)
昭和十八年二月六日	秀十六世 覚	昭和	一九四八	昭和二十三年三月二十七日 本堂上棟式、遷佛式、餅撒きを行う(墓所を西墓地に移転(竣工は三十四年))
二十三世 彰如	惠十七世 祐	昭和	一九五三	昭和二十八年 本堂再建着工
	彰十八世 惠	昭和	一九五八	昭和六十三年 昭本願寺派結成・東京東本願寺を本山とする
		昭和	一九八六	昭和六十一年 現新庫裡完成 御経堂、門柱・門塀・本堂修復、順次完成
		昭和	一九八二	昭和五十六年 東京本願寺独立・大谷派離脱

慈十九世
昌

平成

二〇一八	二〇一六	二〇一五	二〇〇九	二〇〇七	行
平成三十年六月 新庫裡壁面塗装 新庫裡屋上防水張替	平成二十八年四月十日 聖人七五〇回御遠忌法要 本堂修復落慶報告法要 稚児行列	平成二十七年 本堂壁面塗装	平成二十一年 本堂屋根瓦ふき替、及び耐震補強修復完成	平成十九年 西墓地陥没（平成一七年）により兔越墓地に移転	四月十三日 山門入佛式・落慶法告法要 四月十四日 蓮如上人五〇〇回御遠忌法要・稚児行列